

5 今年度の重点課題（アクションプラン）

令和8年度 砺波高校アクションプラン -1-		
重点項目	ア 学習活動 教科指導	
重点課題	授業を中心とした学力の養成と自己学習の充実	
現 状	○授業に対する高い満足度が主体的な学習行動に必ずしもつながっていない点が懸念される。引き続き学習意欲を高める仕掛けづくりや声かけを粘り強く行いながら生徒が学習の意義・目標を核心に据え、学習習慣や態度の変化につながる試みを工夫していく必要がある。 ○授業力向上のため、互見授業を行って日々の授業改善に取り組むとともに、授業方法の研修会等に積極的に参加して、新しい指導法を吸収し授業に反映させている。 ○ICT機器を活用したり、より主体的な学びの場を創出したりして、生徒の思考力・創造力を伸ばす効果的な方法を研究する必要がある。また生成AIの利用についても研究する必要がある。	
達成目標	①家庭学習習慣のアンケート調査 a)「予習復習や課題にしっかり取り組んでいる」と答える生徒 b)「テストを見直し学習改善に活かそうとしている」と答える生徒	②教師の授業力向上 a)「授業に満足している」と答える生徒 b)授業でICT機器を効果的に活用する。または、協働力、発信力を高めるための学び合い活動を行う。
	a) 12月調査で80%以上 b) 12月調査で70%以上	a) 達成率80%以上 b) ほとんどの先生方が取り組んでいる
方 策	○協働力を高める取り組みを学習に取り入れ、思考力、発信力、創造力を高める生徒の集団づくりを進める。予習復習に主体的に取り組む習慣を定着させる。 ○学習実態調査、面接を継続し、生徒の生活実態や学習意識の変化を把握する。また指導と評価を一体化する中で、生徒に学習状況をきちんと確認させながら、学習方法や姿勢の改善、または発展的な取り組みにつながるアドバイスを与えていく。 ○課題発見力と問題解決力を養う探究活動を通じて思考力や表現力、判断力を育成する。 ○教科部会、互見授業、授業研修会などを通じて指導力を高めるよう努力する。また、教科・科目横断型の授業を模索する。	

令和8年度 砺波高校アクションプラン -2-		
重点項目	イ 学校生活	
重点課題	学校生活における基本的生活習慣の涵養と心身の健康保持	
現 状	① 規律ある生活として「挨拶の励行」「服装、頭髪や身だしなみ等の整備」「時間厳守」「公共でのマナー遵守」「携帯電話の適切な使用」を挙げているが、「社会的なルール・マナーを守る気持ちを持つ（意思表示）」即ち、ルール・マナーを必ず守り実践すると回答した生徒は90.8%（令和7年度12月）である。 ② 各学年には、自己肯定感が低く日常的に心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が見られる。早期解決が難しい悩みが原因の場合も多く、長期的な支援が必要な場合もある。生徒の心身の状態の変化を早期に把握し、各学年との連携を図りながら、教職員全体で適切な対応と支援をする必要がある。	
達成目標	①社会的なルール・マナーを知り、必ず守り実践する生徒	②教育相談・支援活動の充実と心身の不調を訴える生徒への対応方法の確立
	95%以上	カウンセリング等 年30回以上 生徒及び教職員対象の講演会等 年3回以上 メンタルヘルスに関わる情報提供 年5回以上
方 策	○「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施して理解度を高める。また、実践する生徒を増やす方策として、生徒が作り宣言したルールを守る形として生徒の自主性に任せる。 ○学年部会や教育相談・支援委員会、職員会議を通し、心身の不調を訴える生徒や学校不適応傾向を示す生徒について全教職員で情報共有して共通理解を図り、早期からスクールカウンセラーや巡回指導員等の専門家を交えた包括的支援を行う。 ○保健講話や保健だより・掲示板による情報発信により、生徒が自らメンタルヘルスについて学ぶ機会を設けることで、自己理解を深め、周囲の人との良好な関係を築くための一助とする。	

令和8年度 砺波高校アクションプラン -3-		
重点項目	ウ 進路支援 進路指導	
重点課題	進路目標の実現に向けて、進路意識の高揚と目標設定の早期化	
現 状	○進路意識が希薄で自分の能力や適性を把握できず目標設定が遅れる生徒がいる。 ○進路目標はあるものの、学習意欲にはつながらない生徒がいる。 ○大学進学後、進路変更を考えるケースがある。	
達成目標	① 生徒1人あたり面接指導の年間実施回数	② 3年1学期までに、進路目標を明確にした生徒の割合
	1、2年生： 6回以上 3年生： 10回以上	80%以上
方 策	○生徒が進路意識を深め、自己を見つめる機会となるよう面接の指導を工夫する。 ○ホームルームの時間などを利用し進路研究を行い、進路意識を高める。 ○社会人や大学生による講話を充実させる。またオープンキャンパスやインターシップなどへの参加を勧めることにより、進路目標の早期設定とミスマッチ防止につなげる。	

令和8年度 砺波高校アクションプラン -4-		
重点項目	エ 特別活動 特別活動・図書委員会活動の活発化	
重点課題	生徒の主体的な活動の充実・図書館利用の推進	
現 状	○学校行事では生徒会が中心となって運営し、クラスや部活動単位で協力し合ってまじめに取り組む生徒が多い。本校生徒としての自覚や連帯感が高いが、やや消極的で主体性に欠ける生徒も見られる。 ○ほとんどの生徒が部活動に所属して主体的に活動に取り組んでいるが、学習との両立に悩み、達成感を得られていない生徒もいる。また部員数の減少により充実した活動を維持することが難しい部がある。 ○図書館の利用方法としては、自主学習の場としての利用がほとんどであり、探究的な学習に図書館資料を使うことが少ない。 ○図書を借りる生徒は多岐にわたるが、貸出冊数はあまり多くない。日頃から読書をする習慣が身に付いていない生徒が少なからずおり、読書量が十分ではない。	
達成目標	①学校行事において主体的に参加、協力した生徒の割合 ②部活動の充実度や結果に対する満足度	③年間読書冊数（生徒一人あたり3冊） ※参考：図書館貸出冊数
	全学年90%以上	全校生徒の読書冊数総数 年間1,200冊以上 ※貸出冊数1,000冊以上
方 策	○行事ごとにアンケートを実施してTGPの身に付けたい力を生徒に意識させ、主体的、協力的な参加意識を高める。 ○限られた時間の中で主体的かつ効率的な部活動運営を工夫する。アンケートによる情報収集をし、生徒数、教員数減少の中、今後の部活動の在り方等について生徒とともに協議しているが、さらに協議を継続していく。 ○生徒が継続して図書館を活用できるよう、各学年に応じた段階的なアプローチを行う。 1 学年：初期指導の充実（図書館オリエンテーション、総合的な探究の時間における図書館利用、文献調査について） 2 学年：課題研究での利活用 3 学年：進路実現のための情報提供（小論指導等）、パスファインダーの設置と充実 ○企画研修部や各学年との連携を図り、蔵書種類の充実を推進するとともに展示方法の工夫により生徒の主体的な学びの場となるような環境を整える。 ○生徒図書委員会の主体的な活動として、教養講座や読書会、ビブリオバトルの運営、アンケート調査などを位置づけ、各クラスの読書推進役となってクラスの読書意欲を喚起するよう働きかける。	

令和8年度 砺波高校アクションプラン －５－		
重点項目	オ その他 保護者、地域、同窓会との連携	
重点課題	保護者や地域、同窓会との連携・協力の推進および広報活動の充実	
現 状	○保護者の学校行事への参加率が高い。 ○授業や生徒会活動、部活動等、多様な活動を通して、地域の方との交流や学習する機会を設けている。	
達成目標	①保護者が研修会に参加する割合	②授業や特別活動で地域の方々と交流した生徒の延べ数が全校生徒に占める割合
	８０％以上	８０％以上
方 策	○学校行事は早めに知らせ、できるだけ保護者が参加しやすいよう配慮する。 ○授業や特別活動で生徒が地域調査に出かけたり施設訪問をしたり、地域の人に来校していただく機会を意図的に設ける。 ○本校の様々な取り組みや成果について適切に発信する方法を検証し、本校の教育活動の広報に努める。	